※このページの掲載写真は，著作権により保護の対象となっていますので，
ホームページ上で公開することができません。ご了承ください。

※このページの掲載写真は，著作権により保護の対象となっていますので，
ホームページ上で公開することができません。ご了承ください。

※このページの掲載写真は，著作権により保護の対象となっていますので，ホームページ上で公開することができません。ご了承ください。

※このページの掲載写真は，著作権により保護の対象となっていますので，ホームページ上で公開することができません。ご了承ください。

※このページの掲載写真は，著作権により保護の対象となっていますので，ホームページ上で公開することができません。ご了承ください。

※このページの掲載写真は，著作権により保護の対象となっていますので，ホームページ上で公開することができません。ご了承ください。

製錬場廃止御届

鹿児島縣川邊郡知覧
金銀鑛製錬場
右ハ特第四〇九二号銀鑛區製錬場明治廿七年五月
四〇九一
二一七三
廿一日福鑛指第二四二號ヲ以テ認可ヲ受ケ候処今般
採登第一四號鑛区ノ製錬場ト致シ別ニ製錬場届
ヲ仕候ニ付特第四〇九二号製錬場タルコトヲ廃止仕候
四〇九一
二一七三
間此段御届申上候也
明治四十五年三月廿九日
鹿児島縣日置郡田布施村尾下拾番戸
鑛業権者　宮内　敬二

福岡鑛山監督署長　野田　勇殿

製錬場開設届

鹿児島縣採掘登録第壱四號鑛區
右鑛山ノ製錬場ヲ別紙設計書詳記ノ通リ
開設仕度候間此段御届申上候也
明治四十五年三月廿九日
鹿児島縣日置郡田布施村尾下拾番戸
鑛業権者　宮内　敬二

福岡鑛山監督署長　野田　勇殿

設計書

一設置場所
鹿児島縣川邊郡知覧村大字郡小字轟民有
田一五八九八番ロ号
一鑛物ノ種類
金銀鑛
一製錬ノ順序方法
鑛山ヲ距ル二里半此間荷馬車ニテ輸送シ来リシ鑛
石ハ其塊大小不同ナリ故ニ其大塊ナレハ凡ソ鶏卵大ニ破
碎ニハ水車ヲ原動力トシ杵二拾本（杵ハ木杵ナリ）ヲ以テ
乾搗的碎鑛ヲナスモノナリ而シテ此破碎鑛石ハ第一
搗鑛所第二搗鑛所ヘ分送シ搗鑛臼内ニテ收
金スベク混汞製錬ヲ行フモノトス其搗鑛混汞後ノ
鑛尾ハ未タ青化收金ノ良績ヲ收メサルガ故ニ當分之ヲ
堆積貯蔵スルモノトス
一製錬ニ使用スル器械等
碎鑛所之部
水車　径一丈六尺　巾二尺四寸　一台
杵　木杵角三寸　長一丈　廿本
臼ハ平凹ミセルモノヲ附属ス
第一搗鑛所之部
水車　径二丈　巾二尺六寸　一台
臼　杵五本毎ニ一個宛　八台
杵　木杵三寸　長十五尺　四拾本
第二搗鑛所之部
水車　径一丈六尺　巾二尺四寸　一台
杵　木杵角三寸　長一丈　八拾本
臼　杵五本毎ニ一個宛　拾六台
一製錬ノ工程
各杵一本ニ付一昼夜平均約五百貫目ヲ搗鑛ス
但碎鑛水車ハ杵一本ニ付一昼夜廿貫目ヲ破碎ス
一薪炭消費高
薪炭ヲ用フルコトナシ
一一ヶ月製錬取扱見込高
但杵百本ヲ常用シ杵一本ニ付鑛石三貫目トシ稼業
日數ヲ廿八日ト計算ス（減水時等アル為メ）
然リト雖モ壱萬貫目ニハ運轉セントス
一鑛滓ニ対スル処置
搗鑛收金ヲ行ヒタル後ノ鑛尾ハ従来青化收金ノ
試驗佳良ナラス故ニ鑛尾ハ沈殿池ニ導キ之ヲ
撈出シ鑛尾貯場（圖示ノ）ニ貯鑛シ後年青化
收金ヲナスベク目下其試驗ヲ怠ラス
或ハ此鑛尾ヲ再搗鑛製錬ニ供シテ收金スルコトアリ
一落成豫定期日
明治四十五年三月廿九日

段御届申上候也

明治四拾五年三月廿八日

鹿兒島縣日置郡田布施村尾下拾番戸

鑛業権者　宮内　敬二

福岡鑛山監督署長　野田　勇殿

※このページの掲載写真は，著作権により保護の対象となっていますので，ホームページ上で公開することができません。ご了承ください。

（ロ）粗鑛ノ数量及品位
粗鑛一ヶ月採堀高壱萬二千貫目
此平均品百分率　金〇・〇〇一八
銀〇・〇〇〇二
（ハ）捨石及坑水
捨石ハ坑内充塡ヲナシ或ハ捨石堆積場ニ堆積ス
其位置圖示ノ如シ
坑内水ハ全クナシ
此地一帯水ニ乏シ坑内ノ出水絶無ナリ飲料水ヲ
態々運ビ上ゲ買入レル状態ナリ
（ニ）通氣、排水及運搬ノ方法
通氣ハ自然ニ坑内循環シ十分ナリ殆ント燈火ヲ
滅ス排水ハ全ク要セス
運搬ハ手子ヲシテ竹籠（ダツ）ニテ負ヒ運バシム坑外ハ製
錬場迠約二里半荷馬車ニテ運鑛ス
（ホ）鑛夫数
一ヶ月間ニ於ケル豫定總工数
坑夫　實人員　八人　延人員　二百廿四人
手子　仝　八人　仝　二百廿四人
計　仝　拾六人　仝　四百四拾八人
右ハ通常ノ場合ニ於ケルモノナリ若シ鑛石部分
狹小トナリタルトキハ増員ヲ要スルコトアリ又廣坑
内支柱ハ坑夫之ヲ行フ
（ヘ）水、瓦斯、磐石、等ニ原因スル操業上
危惧ノ有無及其ノ豫防方法
右等ノ危險更ニ無之ト雖トモ磐石ノ保安ニ
対シテハ常ニ注意ヲ加ヘ十分ノ支柱留木ヲ加
フベシ
四、選鑛ニ関スル事項
（イ）選鑛ノ方法
圖示ノ通リ選鑛場ニ於テ手撰ヲナシ鑛石
ト捨石トヲ別ツノミニテ何等機械ヲ用フルコト
ナシ
（ロ）粗鑛元高並精鑛ノ種類、數量及品位
粗鑛元高一ヶ月壱萬弐千貫目
金銀鑛精鑛高　壱萬貫目
此平均品位百分率　金〇・〇〇二
銀〇・〇〇〇二
（ハ）鑛滓及廢水
選鑛ニ付テ鑛滓ヲ生スルコトナク唯捨石ヲ出タス
ノミナリ此捨石ハ前記採鑛ノ部ニ記載シタル
捨石場ニ堆積スルモノナリ
選鑛ハ坑内ヨリ出鑛ノ侭ニシテ水ヲ使用シテ選
鑛スルコトナシ故ニ廢水ヲ生スルコトナシ
（ニ）鑛夫数
一ヶ月間ニ於ケル豫定總工数
選鑛夫　實人員二人　延人員五拾六人
當山ノ鑛石ハ多クハ坑内ニ於イテ能ク選鑛行ハ
レ坑外ニ搬出スル故比較的多数ノ選鑛夫ヲ
要セサルモノナリ
大塊ナルモノハ製錬場ニ於テ水車杵ニテ破砕ス
五、製錬ニ関スル事項
（イ）製錬ノ方法
別紙系圖ノ通
製錬場ハ鑛区ヲ距ル約二里半仝村大字郡小
字轟ニ在リ
製錬ニ要スル器械、器具
原動力　木製水車四台　水車一台ニ付角三寸長九尺
木杵二拾本宛
○内壱台ハ鑛石ノ大塊ヲ杵ニテ搗砕キ用
○搗鑛機拾二台
臼一個ヲ一台トシ杵五本立
○沈澱池
周圍石垣ニシテ搗鑛尻ニ設ク
○青化槽　一個
但試驗用
○亜鉛箱　一個
但試驗用
○液槽　一個
但試驗用
○汰鉢　二個
但手汰用
（ロ）製錬元鑛量並製産物ノ種類及數量
一ヶ月豫定
製錬元鑛高　壱萬貫目
金　貳百匁
銀　貳拾匁
（ハ）鑛滓、廢水、煙
鑛滓ハ一定ノ堆積場ヲ設ケ之ヲ散乱セシメサル方法
ヲナスコト製錬場届出ノ通ナリ
廢水ハ附近ノ川ニ注ク但従来久シキ操業ノ間他ニ何
等ノ障害ナシ
煙ヲ生スルモノナシ
（ニ）鑛夫數
一ヶ月豫定總工數
製錬夫　實人員四人　延人員百拾二人
當鑛山ノ鑛石ハ未タ青化收金ノ好結果ヲ收ムル能ハス
鑛尾ハ堆積貯鑛シテ追テ青化收金可致目下研究
中ニ属シ居リ工夫
今般右之通鑛業施業案改正相定メ候間此

鹿兒島縣採堀登録第一四号

千二百分ノ一

※このページの掲載写真は，著作権により保護の対象となっていますので，ホームページ上で公開することができません。ご了承ください。

鑛業施業案

鑛業権者　宮内　敬二

鹿兒島縣採堀登録第壱四號

鹿兒島縣川邊郡知覽村

赤石野岡鑛山　金銀鑛

一、鑛床ニ関スル事項

（イ）主要ナル鑛床ノ位置、名称、走向、傾斜、幅

鑛塊鑛床ニシテ其存在ノ區域ハ殆ント鑛區ノ全面ニ亘ルモノヽ如シ而シテ之レヲ裂罅ノ状態ヨリ察スルニ略示南北ニ走向ヲナシ西へ傾斜スルコト約四拾度ヲナス

右ノ如ク一定ノ脉幅ヲ知ルニ難ク其含金鑛帯ノ所在大小不同甚シ

（ロ）鑛物ノ種類及品位

金及銀ニシテ金銀ノ割合ハ金銀混合物百匁中金九拾匁ヲ含ム

鑛石ノ品位ハ鑛石百分中　金〇・〇〇二一　銀〇・〇〇〇二一　ナリ

（ハ）母岩ノ種類及性質

全体硅石ヲ以テ成レルモノニシテ其質頗ル硬ク又裂罅中粘土アリテ其粘土ニ非常ニ冨裕ナル含金ヲナスモノアリ

二、探鑛及開坑ニ関スル事項

開坑

（イ）開坑ノ順序方法

通氣及ビ運搬ノ用ニ供スル為メ横坑道ヲ開坑ス

其位置圖示ノ通リ

横坑道延長ニ拾六間　高五尺　幅三尺

但之レハ坑内採鑛場ヘ達セントスルモノニシテ其坑口ノ位置ハ採鑛場ヨリ高キコト五拾尺ナリ故ニ坑口ヨリ約二丈ヲ平坑道トシ夫レヨリ向斜下坑道トス

（ロ）通氣排水及運搬ノ方法

通氣ハ自然ニテ交流シ十分ナリ又出水ハ全ク無之コト従来ノ採堀實験上断定ス

運搬ハ手子ヲシテ竹籠（ダツ）ニテ負出サシム

岩石裂罅多キガ故ナルベキカ坑内ノ通氣ハ甚ダ佳良ナリ

（ハ）水、瓦斯、磐石等ニ原因スル操業上危惧ノ有無及其ノ豫防方法

右等ノ危險更ニ無之

三、採鑛ニ関スル事項

（イ）採鑛ノ順序方法

従来ノ坑道甚タ廣シ其鑛塊鑛床ニシテ含金状態一様ナラザルガ故ニ整然坑道ヲ設ケテ採鑛スルコト難シ含金アル部分ハ常ニ粘土ヲ伴フガ故ニ此粘土ヲ尋子テ追ヒ堀ヲナシ或ハ右ニ下リ或ハ左へ走リ所々ニ留頭ヲ残シテ採堀場ノ安全ヲ計リ如斯東西南北へ採鑛ヲナスモノナリ横切開堀落成ノ上ハ其坑道ヨリ稼業ス

探鑛ノ作業ニシテ採鑛ノ事業ニ属スルモノアリ故ニ本項ノ記事ヲ省キ採鉱ノ項ニ併記ス

三、採鉱ニ関スル事項

（イ）採鉱ノ順序方法

上下縦横ニ冨鑛帯ヲ索メ坑道ヲ設ケ或ハ下リ堀ヲナシ又ハ他ノ各所ヨリ適宜坑口ヲ設ケテ採堀ヲ進行ス

（ロ）粗鑛ハ數量及品位

一ヶ月粗鑛採堀高五千貫目

鑛石百分中含有率　金〇・〇〇〇八　銀〇・〇〇〇一

（ハ）捨石及坑水

捨石場ハ各々坑口ノ傍ラニ定ム

坑内出水セス

（ニ）通気・排水及運搬ノ方法

自然通氣法ニ依ル

排水ヲ要セス

手子運搬ニ依ル坑外ニ於ケル製錬場迄ノ輸送ハ駄送ニ依ル

（ホ）鑛夫數

坑　夫　一ヶ月　百拾六人　實人員　四人

手　子　仝　百七十四人　仝　六人

計　仝　二百九十人　仝　拾人

坑内支柱工事ハ右ノ坑夫ニ於テ兼子行ヘリ

（ヘ）水、瓦斯、磐石ニ対スル操業上危惧ノ有無及其ノ豫防方法

水ニ関スル危惧ナシ

自然流氣冝シク瓦斯発生ノ危惧ナシ

両磐ヲ固持スル為メ鑛柱ヲ残シテ留支シ或ハ留木・矢木・矢板ヲ使ヒ支柱ヲ加ヘルモノトス

四、選鉱ニ関スル事項

（イ）選鉱ノ方法

粗鑛中ヨリ地石ヲ撰除シ或ハ大塊ヲ小割リニナシ皆手工ニ依ル故ニ別段特種ノ設備ヲ要セス

（ロ）粗鉱元高並精鑛ノ種類・數量及品位

一ヶ月粗鉱元高五千貫目

仝　精鑛高金銀鑛四千貫目

鑛石品位百分率　金〇・〇〇一〇　銀〇・〇〇〇一

（ハ）鑛滓及廃水

各坑口傍ラノ捨石場ニ捨石堆積スルノミニテ鑛滓ナシ

水ヲ使用スルコトナシ故ニ廃水ヲ生セス

（ニ）鉱夫數

採鉱夫一ヶ月　五拾八人　實人員二人

五、製錬ニ関スル事項

（イ）製錬ノ方法

水搗混汞收金ヲナシ鑛尾ヲ青化收金ニテ終ル

製錬ニ使用スル主要ナル器械器具左ノ如シ

搗鑛水車　二台（木杵四拾本臼八個ナリ）實馬力三、

青化槽　捨個（径五尺深四尺木製）

亜鉛箱　二個

（ロ）精錬元鉱量並製産物ノ種類及數量

一ヶ月金銀鑛製錬高四千貫目

純金　四拾匁

純銀　四　匁

但鑛石品位冝敷ナリタルトキハ此三倍ニ達スルコトアリ

（ハ）鉱滓及廃水

青化收金ヲ終リタル鉱滓ハ其ノ常設堆積場ニ堆積シテ散乱セシムルコトナシ

沈澱池ヲ過キタル廃水ハ川ニ注クモノニシテ汚濁微ナリ

（ニ）鉱夫數

製錬夫一ヶ月　百拾六人　實人員　四人

右鉱業施業案御届申上候也

明治四十二年三月廿八日

鹿児島縣日置郡田布施村尾下拾番戸

右　宮内　敬二

福岡鑛山監督署長　﨑川　才四郎殿

坑内實測圖御届

鹿児島縣採堀登録第壱四號鑛區

右鑛區ノ坑内實測圖ハ明治四十四年度ヨリ別紙之通改正仕候尤モ坑道改修等仕候間年度別ハ今後ノ毎年分ヨリ可仕候ニ付今回ハ之レヲ基本ト可仕坑内圖差出候儀相許被下度候此段届出候也

明治四十五年三月廿三日

鹿児島縣日置郡田布施村

尾下拾番戸

鑛業権者　宮内　敬二

福岡鑛山監督署長　野田　勇殿

原　動　機　特許第四〇九一号特許第二一七三號トノ共
同所属製煉場水車一台杵四拾本ノ内拾本ヲ之ニ当ツ
通氣ノ方法　坑道ヨリ自然ニ流通ス
運搬ノ方法　坑内ハ手子ヲシテ持出サシムルヲ便トシ坑外ハ水
車場迄馬ニテ送ル
記事　採鑛ハ黒鏑ヲ堀進ミ採鑛的作業ニ属スル
ヲ以テ含有貧劣ナリトス未タ出水ヲ認メス支柱ハ
松丸太ヲ以テ十分ニ加施シ坑内ノ保安ヲ期ス
割印
右之通施業致度候間認可相成度候也
明治廿七年十月　右鑛業人　宮内　敬二　㊞

計　仝　千五百人　仝　五人

福岡鑛山監督署長　小杉　轍三郎殿
割印
福鑛指第一、八一三號
願之趣認可ス
明治三十七年十二月九日
福岡鑛山監督署長　小杉　轍三郎　印

鉱夫扶助規則改定許可願

特許第弐壱七参号）
特許第四〇九壱号）合併願中
特許第四〇九弐号）
鹿兒島縣日置郡田布施村銀鑛
右ノ鉱山ニ傭使スル鉱夫ノ扶助規則ヲ別記ノ通リ
改定致度候間許可相成度此段相願候也
明治三十八年七月八日
鹿兒島縣日置郡田布施村尾下拾番戸
採堀権者　宮内　敬二

福岡鑛山監督署長　工藤　英一殿

鑛夫扶助規則

第一条　此規則ハ本鑛山ニ使役スル鑛夫ニ適用ス
第二条　鑛夫自己ノ重大ナル過失ニ因ラズシテ業務上
負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル時ハ以下各条
ニ依リ鑛夫又ハ其遺族ヲ扶助ス
第三条　前条ノ場合ニ原因シ鑛夫診察ヲ受クルコトアル時ハ
其療養中ハ總テ其ノ診察費及治療費
ノ實額ヲ給ス
第四条　第二条ノ場合ニ原因シ鑛夫療養ノ為メ休業中
ハ其日數ニ相當スル賃金額ノ参分ノ一以上
ヲ給ス
第五条　第二条ノ場合ニ原因シ鑛夫死亡シタル時ハ其遺
族ヘ葬祭料トシテ金拾円以上及遺族扶
助料トシテ死亡鑛夫ノ受ケタル賃金百日分
以上ニ相當スル金額ヲ給ス
第六条　第弐条ノ場合ニ原因シ鑛夫不具廃
疾者トナリタル時ハ扶助料トシテ其賃金
ノ百日分以上ニ相當スル金額ヲ支給ス
第七条　稼高ニ依リテ賃金ヲ定ムル場合ニ於テハ第
四条第五条及前条ニ記載シタル賃金ハ前
三十日間ノ就業平均額ニ依リテ之ヲ定ムヘシ
右施行候事
明治三十八年七月一日
特第四〇九二号）
特第弐一七三号）増區合併出願中
特第四〇九一号）
採堀権者　宮内　敬二

鑛業施業案

明治廿八年鑛業施業案差出置キ候処自今左ノ通改正
仕候
鹿兒島縣採掘権登録第壱四號
鹿兒島縣薩摩國川邊郡知覽村
金銀鑛
赤石野岡鑛山　共同鉱業権代表者　宮内　敬二
一、鑛床ニ関スル事項
（イ）主要鉱床ノ位置・名称・走向・傾斜・幅
鑛區ノ全地ニ亘リテ塊状鑛床ヲ為セリ其内ニ裂罅アリ裂罅
ヘ粘土アリ粘土ハ含金ニ富メルモノナリ其裂罅走向ハ概シテ南北ニ
走リ傾斜及幅一定セサルモノナリ
（ロ）鑛物ノ種類及品位
金銀混合体ニテ存在シ鑛石百分中　金ハ〇・〇〇〇八
銀ハ〇・〇〇〇一
ヲ普通鑛ノ平均トス
（ハ）母岩ノ種類及性質
俗ニ砥石目磐ト称シ粗面岩ニシテ其質硬シ
二、探鑛及開坑ニ関スル事項

扣

資料　宮内家文書（抜粋）

明治廿八年鑛業施業案

鹿兒島縣薩摩國日置郡田布施村
石塔庵鑛山　銀鑛
特許第貳壱七参號　壱万八千五百七拾七坪
鑛業人　宮内　敬二

採鑛之部
工程
採鑛額　銀鑛貳萬六千貫目　約千六百廿五立方尺
最低含有髙百分率　銀〇・二
工　數
坑夫　延人員　六百人　實人員　二人
手子　仝　六百人　仝　二人
雑夫　仝　六百人　仝　二人
計　仝　千八百人　仝　六人
原動機　特許第四〇九一号特許第四〇九二号トノ共同製
煉場杵四拾本（水車一台）ノ内廿本ヲ之ニ当ツ
通氣ノ方法　各坑道ノ聯絡ニ依リ自然ニ流通ス
運搬ノ方法　坑内ハ手子ヲシテ持出サシメ坑外ハ水車場
迠馬ニテ送ル
記事　採鑛場ハ各坑ヲ堀進シ又ハ鑛柱ヲ残シテ
各坑道間ヲ階段堀ヲナス支柱ハ松丸太ニテ
当業坑夫ヲ使ヒ十分ニ之ヲ施スベシ坑内排
割印
水ヲ要スル所ナシ
右之通施業致度候間認可相成度候也
明治廿七年十月　右鑛業人　宮内　敬二　㊞

福岡鑛山監督署長　小杉　轍三郎殿
割印
福鑛指第一、八一四號
願之趣認可ス
明治三十七年十二月九日
福岡鑛山監督署長　小杉　轍三郎　印

明治廿八年鑛業施業案

鹿兒島縣薩摩國日置郡田布施村
渕ヶ迫鑛山　銀鑛
特許第四〇九壱號　貳萬八千〇五拾坪
鑛業人　宮内　敬二

採鑛ノ部
工程
採鑛額　銀鑛壱萬五千貫目　約九百廿八立方尺
最低含有髙百分率〇・〇八
工數
坑夫　延人員　三百人　實人員　一人
手子　仝　六百人　仝　二人
雑夫　仝　六百人　仝　二人
計　仝　千五百人　仝　五人
原動機　特許第四〇九二号特許第二一七三号ト共同所属
製煉場水車一台杵四拾本ノ内拾本ヲ之ニ当ツ
通氣ノ方法　坑道ヨリ自然ニ流通シテ足レリ
運搬ノ方法　坑内ハ手子ニ持出サシムルヲ便トシ坑外ハ水車迠馬
ニテ送ル
記事　採鑛場ハ渕ケ迫杭ノ西走ヲ堀進ミ及下堀スルモ
ノトシ火薬切羽ナリ両磐堅硬ナルモ危険ノ虞アルケ
所ハ十分ニ支柱ヲ加施スベシ坑内未タ排水ノ要
割印
ナキガ如シ
右之通施業致度候間認可相成度候也
明治廿七年十月　右鑛業人　宮内　敬二　㊞

福岡鑛山監督署長　小杉　轍三郎殿
割印
福鑛指第一、八一五號
願之趣認可ス
明治三十七年十二月九日
福岡鑛山監督署長　小杉　轍三郎　印

明治廿八年鑛業施業案

鹿児島縣薩摩國日置郡田布施村
常珠寺鑛山　銀鑛
特許第四〇九貳號　拾萬六千六百八拾六坪
鑛業人　宮内　敬二

採鑛ノ部
工程
採鑛額　銀鑛壱萬五千貫目　約九百廿八立方尺
最低含有髙百分率銀〇・〇八
工數
坑夫　延人員　三百人　實人員　一人
手子　仝　六百人　仝　二人
雑夫　仝　六百人　仝　二人

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（186）

主要地方道頴娃川辺線（知覧道路）道路改築事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書（Ⅰ）

金山水車（轟製錬所）跡

発行年月　2016年３月

発　　行　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318
鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号

印　　刷　有限会社　国分新生社印刷
〒899-4301 鹿児島県霧島市国分重久627-1
TEL 0995-45-4880　FAX 0995-45-6979